

# 令和2年産米の作付に向けて

～台風19号等による被害対策の徹底～

福島県相双農林事務所農業振興普及部

## 農業者の皆さんへ

今回の台風19号や大雨では、水田への稲わら流入等の被害が発生しました。稲わらを適切に処理して、土づくりや土壌中の交換性カリ含量の維持に活用し、来年の安全で高品質な米の生産につなげましょう！

### 鋤き込みのポイント

- ①台風19号や大雨の被害がないほ場では、なるべく早めに鋤き込みを完了させましょう。
- ②台風・大雨等で畦際に稲わらが寄せられたほ場では、できるだけほ場内に広げて（散らして）から鋤き込みましょう。
- ③鋤き込みの深さは、作業効率や腐熟促進等を考慮して5～10cmの浅耕としましょう。
- ④排水不良田では酸欠で稲わらの腐熟が進まないため、稲わらの鋤き込み後は排水溝を掘って、停滞水をほ場外へ排出しましょう。
- ⑤完全に倒伏して収穫不能となった稲は、可能な範囲で細断し、腐熟促進効果のある土壌改良資材（石灰窒素・ケイカリン等）を活用して、鋤き込み後の稲わらの分解を促進させましょう。



**土砂が流入・堆積したほ場の来年の基肥施肥量は、土壌診断等の結果に従って増減を決定しましょう！**

### 稲わらの野焼きはやめましょう！

稲わらの野外焼却（野焼き）は煙害や交通障害、火災の原因になります。

稲わらは貴重な有機性資源ですので、台風・大雨の被害のなかったほ場では、焼かずに鋤き込みましょう。

